

## 個人山行報告

### 会津駒ヶ岳・尾瀬ヶ原・至仏山

平尾

会津駒ヶ岳を知ったのは、かつて山ルームに飾ってあった「労山カレンダー」の写真で、kさんと「いいね」と話したのが最初。その後、会津駒ヶ岳から尾瀬を縦断し至仏山から笠ヶ岳までのロングトレイルコースを教えてもらった。尾瀬にはこれまで3度訪れ、燧ヶ岳、至仏山、尾瀬ヶ原、アヤマ平は歩いている。2度の至仏山登山でホソバヒナウスユキソウ（至仏山と谷川岳のみに自生）にはお目にかかったが、固有種と聞いていたオゼソウには出会ったことがないので、ぜひ見てみたいというのが今回の山行の強い動機になって梅雨真最中のこの時期になった。

日時 2024年7月2日（火）～7月5日（金）

<1日目>晴れ 桧枝岐村（前泊） 北千住で特急リバティ会津に乗り、会津高原尾瀬口駅から尾瀬御池行の会津バスに乗り換え駒ヶ岳登山口で下車。夕食に村で貴重な食材とされているハコネサンショウウオの天ぷらが出た。

<2日目>雨のち晴れ 滝沢登山口6:19→駒ノ小屋9:23→会津駒ヶ岳10:04→駒ノ小屋10:40→大津枝峠12:17→キリンテ登山口14:48（13.7km、上1,367m/下1,283m、8:29） 昼前まで雨の予報、宿の車で滝沢登山道入口まで送ってもらう。木の階段を登り登山道へ。ミズナラ、カラマツの林からやがてブナ林に入る。ブナの根を越え段差のある登りが続く。7時頃雨脚が急に激しくなる。ブナの根元にマイヅルソウの花がたくさん見られた。ゴゼンタチバナも咲き、関西では2・3月に咲くセリバオウレンが咲いていて感激した。やがてオオシラビソの樹林に代わり、森林限界を抜けると湿原が現れた。ミツガシワ、イワイチョウ、ハクサンコザクラが咲いていた。やがて駒ノ池が現れ向うに駒ノ小屋が見えた。雨は止みそうもないので小屋のトイレで昼食をとる。池の横を通り山頂を目指す。池にはサンショウウオの卵塊が見られ、左手には残雪が残っていた。両脇のシクナゲの花の間を上り山頂に出る。低木に囲まれ展望はない。中門岳に向かうが、木道の先が残雪で木道が凍っていた。バスの時間の都合で引返す。分岐を右へ行く。咲き残りのミネザクラの一輪とサンカヨウの花が濡れて透きとおっていたのが見られて感激した。富士見林道を大津枝峠へ向かう。シラネアオイが咲いていた。山腹を巻く道で所々岩場や斜面の湿原があらわれ変化に富んでいた。大津枝峠からは下りに入、急な斜度もなくブナ林の中のいい道だった。このあたりで今まで吹いていた風音がぴたりとやみ雨もあがった。ブナ林のなかを下り沢音が聞こえるとまもなく国道にでた。キリンテ登山口である。キャンプ場前のバス停でバスを待つ。地元の若い山岳ガイドが椅子を持ってきてくれ話をした。地元の子供を連れ田代山へ行ってきて、明日は駒ヶ岳に登るという。この時期の駒ノ池は例年では雪で見えないそうだ。見た花：ツマトリソウ、ユキザサ、チングルマ、タテヤマリンドウ、ワタスゲ、シナノキンバイ、ミヤマキンポウゲ、コイワカガミ、コケオトギリ、タケシマラン、イワシモツケ、ミヤマエンレイソウ、ベニサラサドウダン、ヨツバシオガマ、ハクサンチドリ、ミネウスユキソウ、イワハタザオ、ヤグルマソウ、カラマツソウ、ウラジロヨウラク、オガラバナ、ギンリョウソウ、エゾユズリハ、コメツツジ、アカモノ、ダイモンジソウ、ハナニガナ、シロバナハナニガナ、コバイケイソウ、カニコウモリ、オオバクロモジ、ネバリノギラン、ハクサンイチゲ他

<3日目>雨のち晴れ 尾瀬御池ロッジ8:00→三条ノ滝展望台11:49→元湯山荘12:51→見晴13:34→尾瀬植物研究見本園→山の鼻小屋16:05（16.8km、上475m/下572m、8:05） 朝から雨、様子を見て8時過ぎに雨具に傘をさして尾瀬御池ロッジを出発。燧裏林道に行く。御池田代・上田代・横田代・ノメリ田代、天神田代など次々と大小の湿原が現れる。ブナ林が見事だ。クロベやダケカンバの大樹もあった。分岐で三条ノ滝へ下る。このところの雨で普段にまして水量豊富でごろごろとした流れは茶色だったが豪壮だった。平滑ノ滝を横に見ながら尾瀬ヶ原に向かう。元湯山荘の前で雨具を脱ぎ、見晴へ。ニッコウキスゲやヒオウギアヤメの群落をみて尾瀬ヶ原を山の鼻へと向かう。ヒツジグサ、ナガバノモウセンゴケ、トキソウ、サワランなど夏の花が楽しめた。16時過ぎ、山の鼻の尾瀬植物研究見本園を回る。出口付近のミズバショウの生えた草地でゴソゴソと音がした。近づいても逃げる気配もなく、クマだと察知しすぐに囲いの外へ出た。見た花：ツルコ

ケモモ、ワタスゲ、カキツバタ、ハクサンタイゲキ、ヤナギトラノオ、キンコウカ、ハクサンチドリ、マイサギソウ他

<4日目>晴れ 山の鼻小屋 6:52→至仏山 9:34→小至仏山 10:27→鳩待峠 12:07 (7.7km、上859m/下674m、5:15) 植生保護のため登り専用の登山道に行く。クロベの森から水が流れる急な登り道を行き、森林限界を抜け蛇紋岩の道を上り至仏山頂をめざす。振り返ると尾瀬ヶ原、燧岳が見えるあたりから花が現れ登山道の左右に目を凝らす。タカネバラ、ミヤマナデシコ、ホソバヒナウスユキソウなどが次々と現れるが、今回の山行目的のひとつオゼソウはなかなか見つからない。高度がだいぶ上がり諦めかけたころ、相方が見つけてくれた。狭い範囲に生えていて地味な花なので気づく人もいないようだが、出会えて感激した。小至仏山への下りではジョウエツキバナノコマノツメがたくさん見られ、1ヶ所オゼソウも咲いていた。12時鳩待峠に到着。バスで尾瀬戸倉へ行き、高速バスに乗り換え東京へ戻った。見た花：ジョウシュウアズマギク、ホソバツメクサ、イブキジャコウソウ、ハクサンイチゲ、シブツアサツキ、タカネバラ、タカネナデシコ、ユキワリソウ、イワシモツケ他



会津駒ヶ岳



燧裏林道



尾瀬ヶ原



サンカヨウ



シラネアオイ



ミツバオウレン



ヒツジグサ



ジョウシュウアズマギク



ホソバヒナウスユキソウ



オゼソウ



※オゼソウは、至仏山で発見されたサクライソウ科オゼソウ属の1属1種の日本の固有種で、谷川岳と北海道の蛇紋岩地帯に隔離的に分布しているという。